様　式　C－１９、F－１９、Z－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 １１ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2015
課題番号：２６６７０３２２

研究課題名（和文）健康寿命延伸を目指した北海道内新規コホート研究実施のためのパイロットスタディ

研究課題名（英文）A pilot study to develop a new cohort study in Hokkaido to increase healthy life expectancy

研究代表者

玉腰　暁子（Tamakoshi, Akiko）

北海道大学・医学（系）研究科（研究院）・教授

研究者番号：９０２３６７３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：北海道内の異なる特性を持つ複数の市町村を対象に約2万人規模で計画している、生活習慣・心理状態、遺伝要因、社会環境を同時に詳細に調査して複合的に健康寿命の延伸を目指すコホート研究のパイロットスタディをA町にて実施した。準備段階から有識者のみならず行政、医療機関、地域住民の参画も促し、住民のエンパワメントを引き出しながら進めたこと、ならびに行政の協力により、調査票調査に約7割、集合型調査に約3割の住民が参加した。

研究成果の概要（英文）：To develop a new cohort study plan which going to investigate impacts of lifestyles, mental status, hereditary factors, social circumstances and their combinations to health involving about 20,000 participants from a number of towns in Hokkaido, a pilot study in A town was conducted. From its preparing phase, not only executive officers and health professionals, but also residents living in A town participated to make a study plan, and with a co-operative support from officers of A town hall, finally, about 70% and 30% of residents participated in the questionnaire survey and examination survey, respectively.

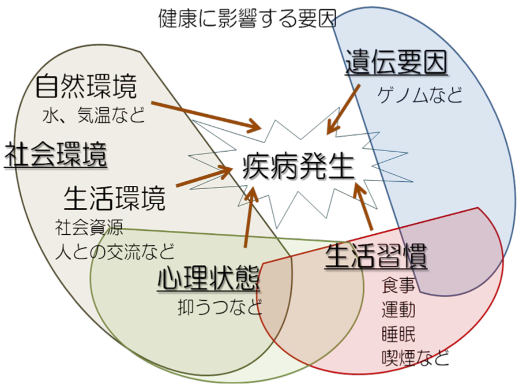
研究分野：公衆衛生学

キーワード：健康寿命　コホート研究　パイロットスタディ

１．研究開始当初の背景

これまでに国内で行われているコホート研究の多くは主に生活習慣を中心課題として、がん、循環器疾患等に与える影響の大きさやその組み合わせを検討してきた。加えて最近では、測定の迅速化、大量化、廉価化を反映し、ゲノム情報も加えたゲノムコホート研究が盛んになってきている。一方、健康日本21第二次にも「健康格差の縮小」が盛り込まれたように、人々の健康は遺伝要因（ゲノム情報）と生活習慣のみならず生活・社会環境にも大きく依存している。この生活・社会環境は単に自然環境のみならず、地域の社会経済状況、人々の結びつきを意味するものであるが、そのような要因に着目したコホート研究は未だ多くはなく、国内ではこれら三者（生活習慣・心理状態、遺伝要因、社会環境）を同時に詳細に調査しコホート研究により健康影響を確認している研究は未だ存在しない。

北海道には、いわゆる大都市から、農業（農耕、牧畜）、漁業（海面漁業、養殖業）、観光業などを中心とする町村まで産業構造の異なる特色ある市町村が存在する上、高齢化率（平成24年65歳以上人口割合）も夕張市の45.1%から千歳市の18.2%までバラエティに富んでいる。したがって北海道で得られた成果は、さらに高齢化が進む今後の日本の保健医療対策に大きな示唆を与えるものと期待される。そこで、申請者はJACC Study等の生活習慣、生体試料を用いたコホート研究をこれまで運営し、かつソーシャルキャピタルを中心に社会環境の健康影響を検討するJAGES(JAGES Project) では北海道地区を担当していることから、健康寿命の延伸を目的とし、北海道内の特徴の異なる複数の市町村を対象に合計約2万人を対象とするコホート研究を立ち上げることを企画した。



２．研究の目的

本研究は、道内で特徴の異なる複数の市町村を対象に開始するコホート研究のパイロットスタディとして位置づけ、調査を行うことで、対象者のリクルート方法、情報収集方法、追跡方法等、策定した研究計画ならびにマニュアル類のフィージビリティを確認することを目的とする。

３．研究の方法

パイロットスタディは、町長、地域の保健師（行政担当者)、所長をはじめとする町立診療所職員らの調査に対する理解があるA町で行うこととした。打ち合わせは、現地ならびに札幌で実施する他、現地と大学が車で約3時間離れていることからWeb会議を多用した。

調査項目の検討にあたっては、A町行政担当者、診療所職員らの意見のみならず、住民の意見も引き出すために、対話会を開催した。調査票の配布・回収方法の確定、集合型調査の設定にあたっては、町の実態をよく知る保健師、診療所職員のアドバイスを得た。さらに、住民との意見交換会を経て、役場職員の協力も得て実施した。調査方法に関しては、研究計画書、手順書としてまとめることとした。

４．研究成果

質問紙調査項目は、A町行政担当者、診療所職員らと協力し開催した地域住民との対話会の中で把握した地域の健康問題、10-20年先の将来予測像とそのために今住民が求め

ていること、家庭医として地域住民に関わる診療所の意見も参考に、今までに使われている自記式調査票や尺度化された心理調査などを取り入れて確定した。調査にあたっては、A 町内を町内会単位に区分し、できるだけ多くの住民（3 歳以上）から協力を得るため、自記式調査票は 2015 年 5～8 月に実施し、各戸配布、回収は郵送式に加え、役場等の拠点でのボックス回収ならびに訪問回収を併用した。調査項目は、年齢、性別、既往歴、喫煙習慣、飲酒習慣、食習慣、教育歴、職業歴、家族構成、外出手段、栄養状態、首尾一貫感覚、自覚的健康度、健康リテラシー、家庭医の有無などとした。

さらに、自記式調査票調査に協力したものを対象に、血液・尿・便の収集のみならず、妥当性の確立した客観的な身体組成評価等を、公民館を中心にアドホックに会場を設営し実施した。集合型調査は 2015 年 8～11 月に実施し、開催は午前中としたが、対象者の生活パターンを考慮し、朝 6 時から開始、平日のみならず土日開催も設定した。調査項目は、身長・体重、血圧、骨密度、筋力、握力、重心動揺、動脈硬化度などとした。最終的に対象者約 3000 名のうち、調査票調査に約 7 割、集合型調査に約 3 割のものが参加した。追跡調査は、今後、町と協力して実施するが、死亡・転出の他、がん罹患、要介護認定、診療録（町立診療所受診者）、医療費（国保加入者)等を予定している。

今回のパイロットスタディで高い参加率が得られたのは、準備段階から有識者のみならず行政、医療機関、地域住民の参画も促し、住民のエンパワメントを引き出しながら進めたこと、ならびに行政の協力によるところが大きく、新しい地域における研究の形の提案となる。また、A 町側に、行政職員とは別に自由に動け町民との関係が良好なパートナーを配置できたことも、調査のスムーズな実施に大きく貢献したと考えられた。本パイロットスタディの方法をさらに発展させ、北海道内の複数の市町村を対象に、全体で 2 万人規模のコホート研究を目指したい。その際は、今回の A 町で実施したように、町と密接な関係を構築し、町民も巻き込む形での展開が有用と考えられる。今後、このような関係作りをしつつコホート研究を行うことで得られる成果は、今後さらに高齢化の進む日本において健康寿命の延伸に資する情報を提供し、行政と住民が一体となった保健対策へとつながると期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　0　件）

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://publichealth.med.hokudai.ac.jp/research/健康に暮らせる町づくりを目的とした生活習慣および健康状態の調査（dosanco-health-study）/

６．研究組織

(1)研究代表者

玉腰　暁子（TAMAKOSHI, Akiko）
北海道大学・大学院医学研究科・教授
研究者番号：90236737

(4)研究協力者

鵜川　重和（UKAWA, Shigekazu）
中村　幸志（NAKAMURA, Koshi）
岡田　恵美子（OKADA, Emiko）
佐々木　幸子（SASAKI, Sachiko）